

アンケート調査結果

一 目 次 一

1. 調査の目的	1
2. 調査の実施概要	1
3. 調査結果（農業生産者）	2
設問 1. 回答者について	2
設問 2. 現在生産している農作物、5年前の時点での生産していた農作物について	3
設問 3. 今後、新たな品目を生産したいと思うか	5
設問 4. 生産したい品目は何か【自由回答】	5
設問 5. 農業生産による年間販売額	6
設問 6. 家計の中で占める農産物の販売収入	6
設問 7. 5年前と比較した、農業生産による年間販売額の変化	7
設問 8. 農産物の出荷頻度について（現在と5年前）	7
設問 9. 生産している農作物（主たるもの）の出荷先【複数回答】	8
設問 10. 農業の後継者	9
設問 11. 10年後の農業経営の主体がどうなっていると考えるか	10
設問 12. 今後の農業に係る労働力の確保について大切と考えること【複数回答】	10
設問 13. 所有している農地で耕作（利用）していない農地があるか	11
設問 14. 耕作（利用）していない理由【複数回答】	11
設問 15. 農地の規模（経営規模）を将来（およそ10年後）どう考えているか	12
設問 16. 増やしたい農地をどのように活用して農業経営をしていきたいか	12
設問 17. 農業経営上の課題	13
設問 18. 農地に関して困ったことや要望があった場合の相談先【複数回答】	14
設問 19. 大野町全体における農業の課題【複数回答】	15
設問 20. 農業を活かした都市や町民との交流を促進するために必要な取組【複数回答】	16
設問 21. 大野町の農業や農村に期待する役割【複数回答】	17
設問 22. 農業振興にあたって行政に期待すること	18
設問 23. 「ぎふ清流GAP評価制度」や「HACCP」の取組を推進していくこと	19
設問 24. 「ぎふ清流GAP評価制度」や「HACCP」の取組への意向	19
設問 25. 「スマート農業」の取組を推進していくこと	20
設問 26. 「スマート農業」の取組への意向	20
設問 27. 「農福連携」の取組を推進していくこと	21
設問 28. 「農福連携」の取組への意向	21
設問 29. 「有機農業」の取組を推進していくこと	22
設問 30. 「有機農業」の取組への意向	22
4. 調査結果（消費者）	23
設問 1. 回答者について	23
設問 2. 普段の食料品購入について	24
設問 3. 農産物の主な購入場所【複数回答】	24
設問 4. 農産物を購入する際に重視すること【複数回答】	25

設問 5.	地元産の農産物の価格が高くても、購入したいと思うか	25
設問 6.	「有機農業・減農薬栽培」による農作物の価格が高くても購入したいか	26
設問 7.	大野町の農産物で特に食べたい・購入したいもの【複数回答】	27
設問 8.	全国に誇れる大野町の農産物【複数回答】	28
設問 9.	町内産農産物のイメージ	29
設問 10.	農業に対するイメージ	30
設問 11.	消費者として農業が果たすべき役割【複数回答】	30
設問 12.	農地の保全についてどうすべきか【複数回答】	31
設問 13.	大野町の農業が果たすべき役割【複数回答】	32
設問 14.	農業に対する支援の必要性について	32
設問 15.	農業振興にあたって行政に期待することは何か	33
設問 16.	農業の担い手を確保・育成していくために必要なこと【複数回答】	34
設問 17.	就農への興味の有無	34
設問 18.	就農にあたって必要な支援	35
設問 19.	就農したいと思わない理由	35
設問 20.	今後大野町を訪れる人に農業に関することで紹介したいこと【複数回答】	36
設問 21.	「ぎふクリーン農業」や「GAP・HACCP」という取組を知っているか	36
設問 22.	「スマート農業」について知っているか	37
設問 23.	「農福連携」について知っているか	37
設問 24.	「有機農業」について知っているか	38

1. 調査の目的

令和 3 年 3 月に策定された大野町農業基本計画の計画期間が令和 7 年度をもって終了することから、農業を取り巻く社会情勢の変化・時代の潮流及び大野町内の生産者・消費者の意向を踏まえ新たな大野町農業基本計画（以下「農業基本計画」という。）の策定することを目的とし、調査を実施した。

2. 調査の実施概要

以下にアンケート調査の概要を示す。

対 象 : 農業生産者…大野町内の農業者 200 名

消費者 …大野町内の消費者無作為抽出名 500 名

実施期間 : 令和 7 年 9 月 12 日（金）～令和 7 年 9 月 30 日（火）

実施方法 : 郵送、WEB アンケート

回答数 : 農業生産者…126 票（紙：99 票、WEB：27 票）

消費者 …275 票（紙：206 票、WEB：69 票）

回収率 : 農業生産者…63%

消費者 …55%

表 1 アンケート調査の回答数・回収率

単位：票

	紙	WEB	合計
農業生産者	99	27	126
消費者	206	69	275
合計	305	96	401

回収率	
農業生産者	63%
消費者	55%

3. 調査結果（農業生産者）

以下に農業生産者における調査結果を示す。回答数は 126 票である。

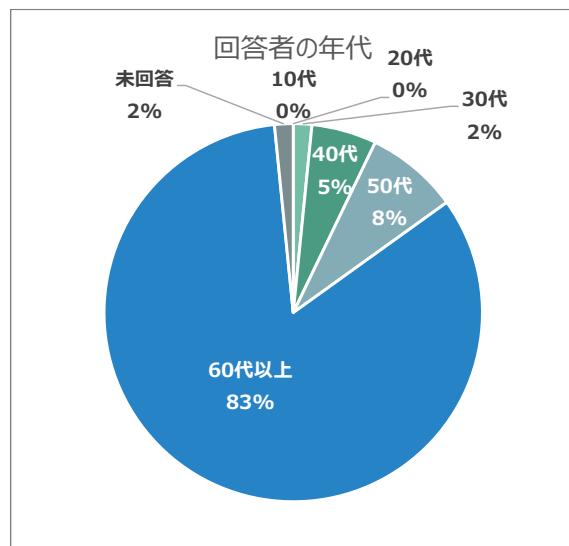
設問1. 回答者について

年代

- 「60 代以上」が最も多い。

項目	票数	割合
10代	0	0%
20代	0	0%
30代	2	2%
40代	7	5%
50代	10	8%
60代以上	105	83%
未回答	2	2%

126 100%

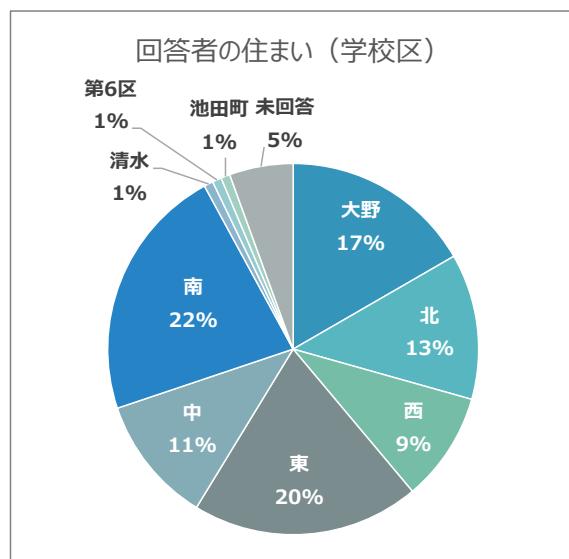


住まい（学校区単位）

- 「南」小学校区が最も多い。

項目	票数	割合
大野	21	17%
北	16	13%
西	12	9%
東	25	20%
中	14	12%
南	28	22%
清水	1	1%
第6区	1	1%
池田町	1	1%
未回答	7	5%

126 100%

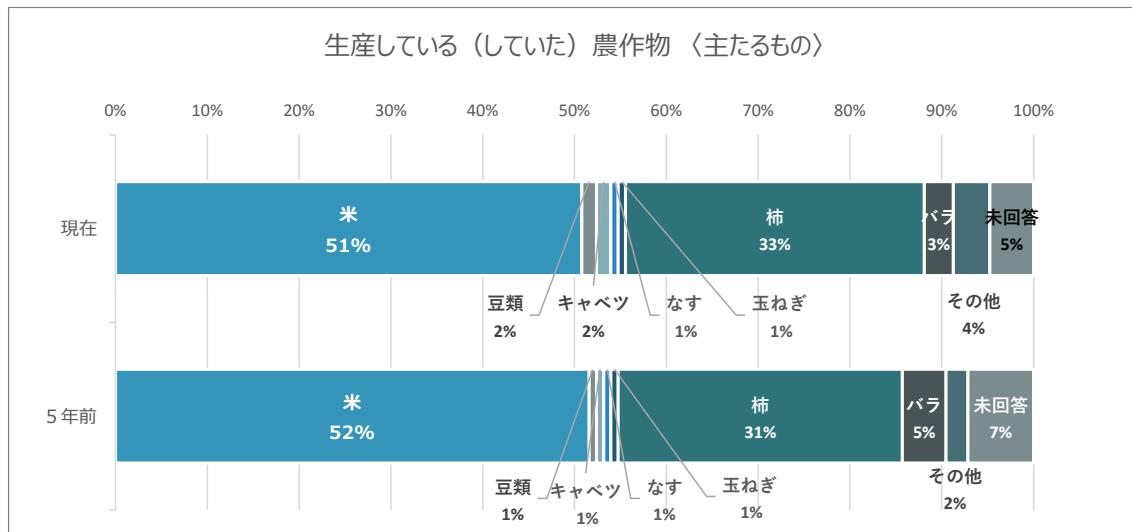


設問2. 現在生産している農作物、5年前の時点で生産していた農作物について

現在生産している、5年前に生産していた農作物（主たるもの）

- 現在生産している農作物、5年前に生産していた農作物ともに「米」が最も多く、次いで、「柿」が多い。

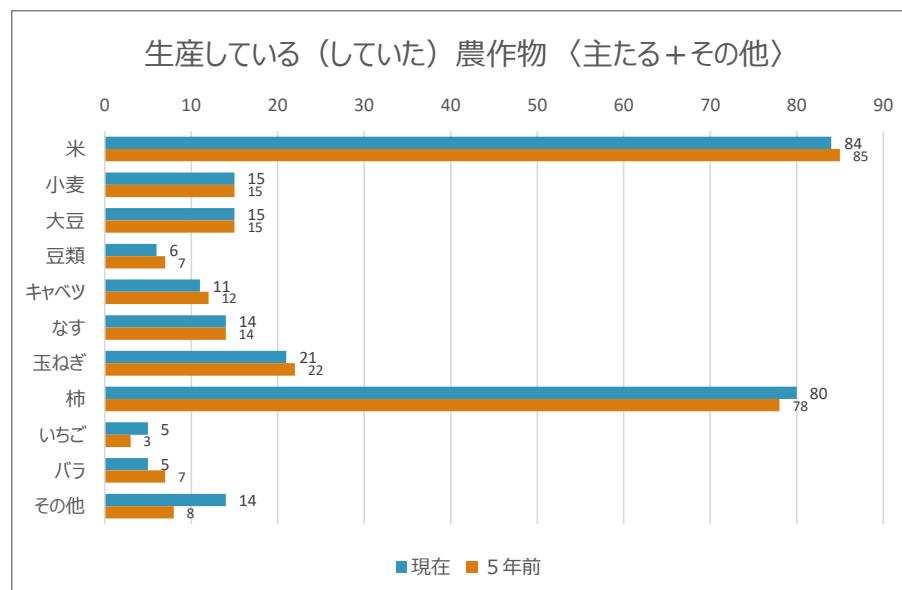
項目	現在		5年前	
	票数	割合	票数	割合
米	64	51%	65	52%
小麦	0	0%	0	0%
大豆	0	0%	0	0%
豆類	2	2%	1	1%
キャベツ	2	2%	1	1%
なす	1	1%	1	1%
玉ねぎ	1	1%	1	1%
柿	41	33%	39	31%
いちご	0	0%	0	0%
バラ	4	3%	6	5%
その他	5	4%	3	2%
未回答	6	5%	9	7%
	126	100%	126	100%



現在生産している、5年前に生産していた農作物（主たる+その他）【複数回答】

- 現在生産している農作物は、主たるものとその他を合わせると「米」、「柿」が多い。
- 「米」、「柿」を除いた農作物では「玉ねぎ」が多い。
- 5年前に生産していた農作物も「米」「柿」が多い。
- 5年前と現在を比較すると、「その他」が増えており生産品の多品目化が進んでいると考えられる。

項目	現在		5年前	
	票数	割合	票数	割合
米	84	67%	85	67%
小麦	15	12%	15	12%
大豆	15	12%	15	12%
豆類	6	5%	7	6%
キャベツ	11	9%	12	10%
なす	14	11%	14	11%
玉ねぎ	21	17%	22	17%
柿	80	63%	78	62%
いちご	5	4%	3	2%
バラ	5	4%	7	6%
その他	14	11%	8	6%
	270		266	



その他の内容

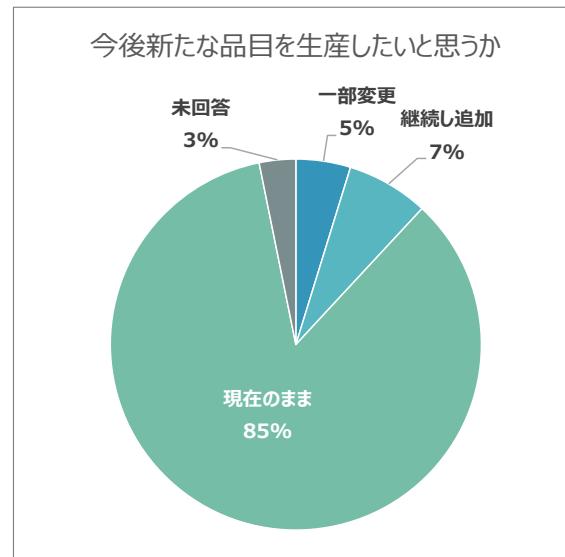
- | | | | |
|------------------|------|------------|---------|
| ・飼料用米 | ・そば | ・家庭野菜 | ・自家用野菜 |
| ・ブロッコリー | ・レタス | ・白菜 | ・アスパラガス |
| ・ほうれん草 | ・ネギ | ・サツマイモ | ・里芋 |
| ・ぶどう | ・もも | ・いちじく | ・なし |
| ・イチゴ苗 | ・レモン | ・フランネルフラワー | |
| ・小菊 | ・切花 | | |
| ・樹木・農業生産者ではありません | | | |

設問3. 今後、新たな品目を生産したいと思うか

- ・「現在生産している品目のままでよい」が最も多い。
- ・新しい品目に対して消極的である。

項目	票数	割合
現在生産している品目の一部を新しい品目に変更して生産したい	6	5%
現在生産している品目は継続し、追加で新しい品目も生産したい	9	7%
現在生産している品目のままでよい	107	85%
未回答	4	3%
	126	100%

3



設問4. 生産したい品目は何か【自由回答】

※設問3で「現在生産している品目の一部を新しい品目に変更して生産したい」「現在生産している品目は継続し、追加で新しい品目も生産したい」と回答した者のみ

- ・柿の品種の増加、近年の気候変動に対応した品目などの意見があった。

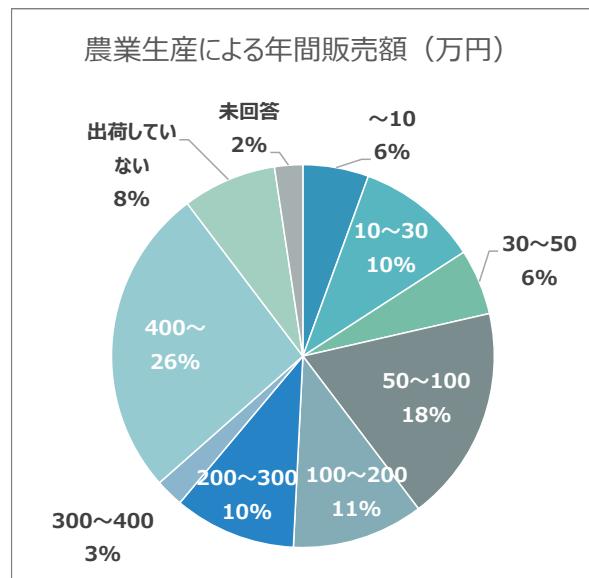
項目	票数
米	1
大豆	1
麗玉	2
柿（西村）を同じ柿の早秋、太秋、ベビーパーシモン、麗玉に変更してゆきたい。	1
柿の品種を増やしたい	1
人参	1
アボカド	1
レモン	1
コーヒー豆	1
近年の暑さに強い品種への切り替え	1
具体的には決まっていないが今後の状況に対応出来るよう情報収集を行っている。	1
検討中	1
まだサラリーマンをしており、今後何かを作りたいと漠然と考えている。	1
農業生産者ではありません	1

15

設問5. 農業生産による年間販売額

- 年間販売額「400万円以上」が最も多い。

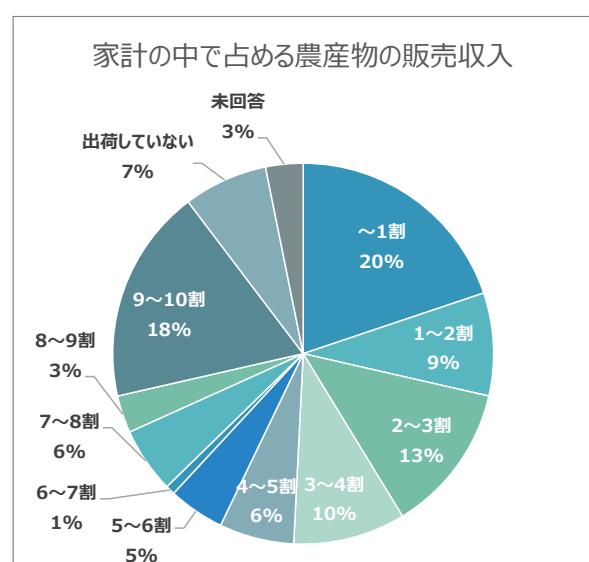
項目	票数	割合
~10万円	7	6%
10~30万円	13	10%
30~50万円	7	6%
50~100万円	23	18%
100~200万円	14	11%
200~300万円	13	10%
300~400万円	3	3%
400万円~	33	26%
出荷していない	10	8%
未回答	3	2%
	126	100%



設問6. 家計の中で占める農産物の販売収入

- 家計を締める割合「~1割」が最も多く、次いで「9~10割」が多い。
- 家計を締める割合については、低い層と高い層に二極化する傾向が見られる。一方で、2~8割程度を担う中間層も一定数存在しており、家計の中で占める農産物の販売収入は多様であることが示唆される。

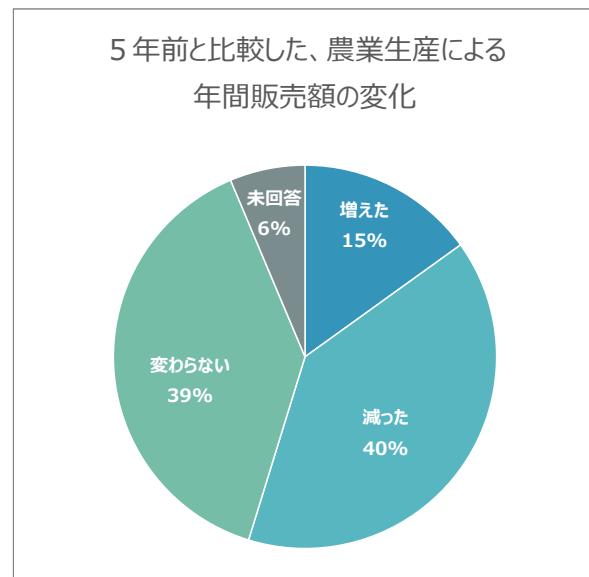
項目	票数	割合
~1割	25	20%
1~2割	11	9%
2~3割	16	13%
3~4割	12	10%
4~5割	8	6%
5~6割	6	5%
6~7割	1	1%
7~8割	7	6%
8~9割	4	3%
9~10割	23	18%
出荷していない	9	7%
未回答	4	3%
	126	100%



設問7. 5年前と比較した、農業生産による年間販売額の変化

- 5年前より販売額が「減った」という回答が最も多く、次いで「変わらない」が多い。
- 気候変動や自然災害による収穫量の減少、労働力不足や後継者減少、市場価格の低下などが要因であると考えられる。

項目	票数	割合
販売額が増えた	19	15%
販売額が減った	50	40%
ほとんど変わらない	49	39%
未回答	8	6%
	126	100%

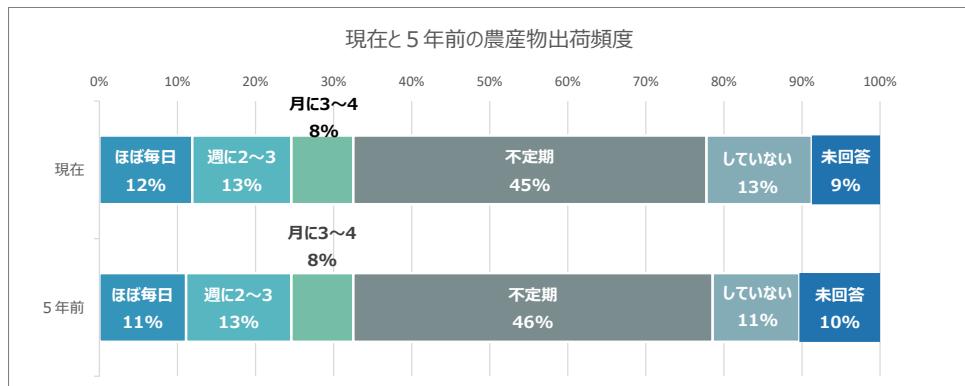


設問8. 農産物の出荷頻度について（現在と5年前）

現在と5年前の出荷頻度

- 現在、5年前ともに「年に数回不定期に出荷」が最も多い。

項目	現在		5年前	
	票数	割合	票数	割合
ほぼ毎日出荷している	15	12%	14	11%
週に2～3回程度	16	13%	17	13%
月に3～4回程度	10	8%	10	8%
年に数回不定期に出荷	57	45%	58	46%
出荷していない	17	13%	14	11%
未回答	11	9%	13	10%
	126	100%	126	100%



設問9. 生産している農作物（主たるもの）の出荷先【複数回答】

現在・5年前の出荷先

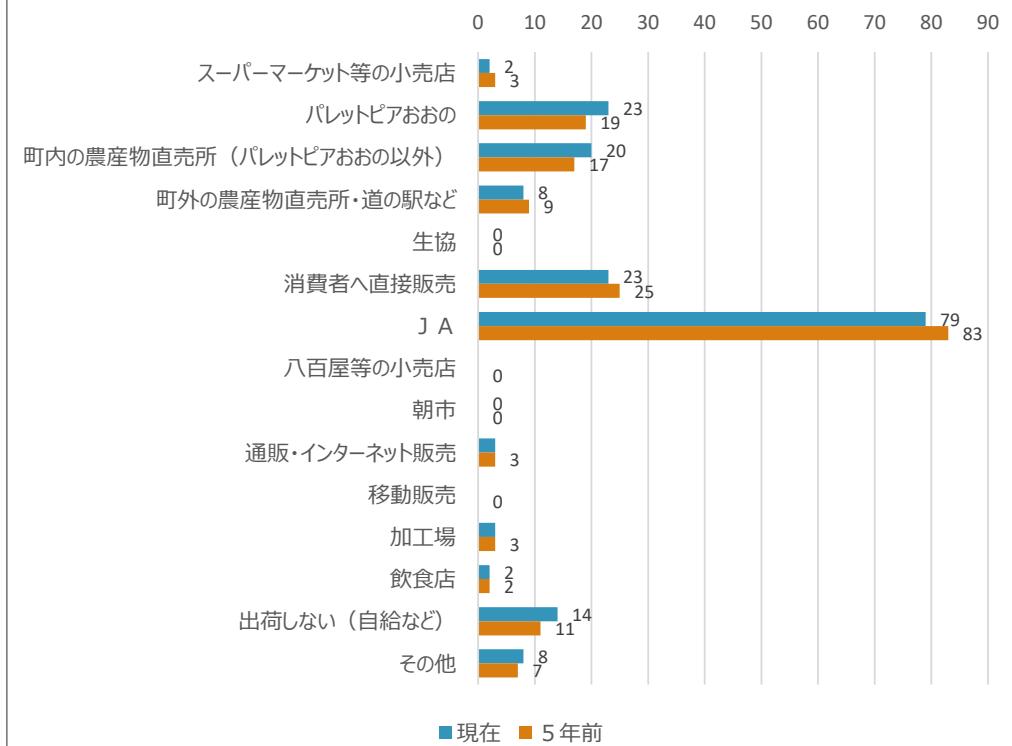
- 現在、5年前ともに出荷先は「JA」が最も多い。
- 現在の出荷先としては、パレットピアおおのをはじめ、消費者への直接販売も一定数存在している。

項目	現在		5年前	
	票数	割合	票数	割合
スーパー・マーケット等の小売店	2	2%	3	2%
パレットピアおおの	23	18%	19	15%
町内の農産物直売所（パレットピアおおの以外）	20	16%	17	13%
町外の農産物直売所・道の駅など	8	6%	9	7%
生協	0	0%	0	0%
消費者へ直接販売	23	18%	25	20%
JA	79	63%	83	66%
八百屋等の小売店	0	0%	0	0%
朝市	0	0%	0	0%
通販・インターネット販売	3	2%	3	2%
移動販売	0	0%	0	0%
加工場	3	2%	3	2%
飲食店	2	2%	2	2%
出荷しない（自給など）	14	11%	11	9%
その他	8	6%	7	6%
	185		182	

その他の内容

- 市場
- 花市場
- 大垣市場
- 卸業者
- 業者に全部出荷。
- 注文先
- JA いび川農協共選場

生産している農作物（主たるもの）の現在と5年前の出荷先

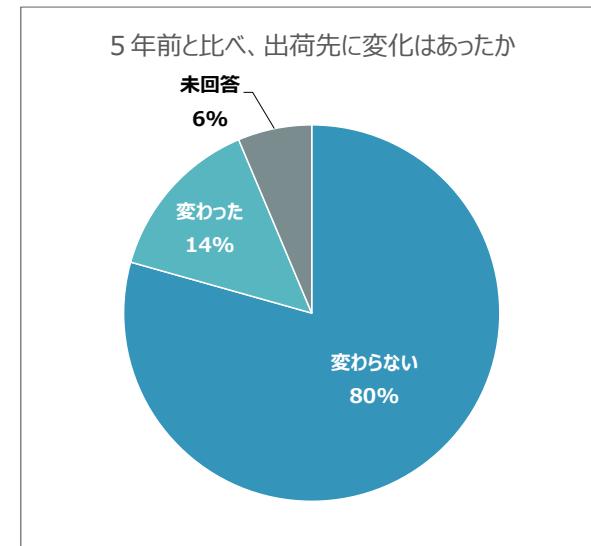


5年前と比べてどう変化したか

- ・5年前と比べ「出荷先を変えていない」が最も多い。
- ・出荷先を変えた生産者が14%ある。

項目	票数	割合
出荷先を変えていない	100	80%
出荷先を変えた	18	14%
未回答	8	6%

126 100%



設問10. 農業の後継者

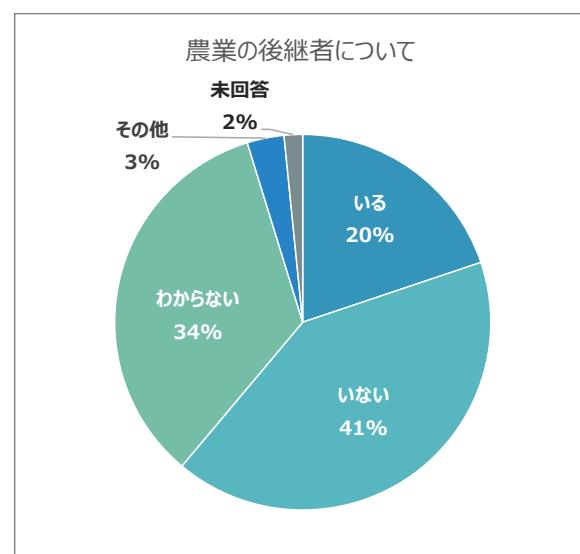
- ・農業の後継者は「いない」が最も多い。
- ・後継者の確保・育成が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
後継者は「いる」	25	20%
後継者は「いない」	52	41%
後継者はいるが農業を継ぐかはわからない	43	34%
その他	4	3%
未回答	2	2%

126 100%

他の内容

- ・未定
- ・農業組合法人で運営
- ・農業法人



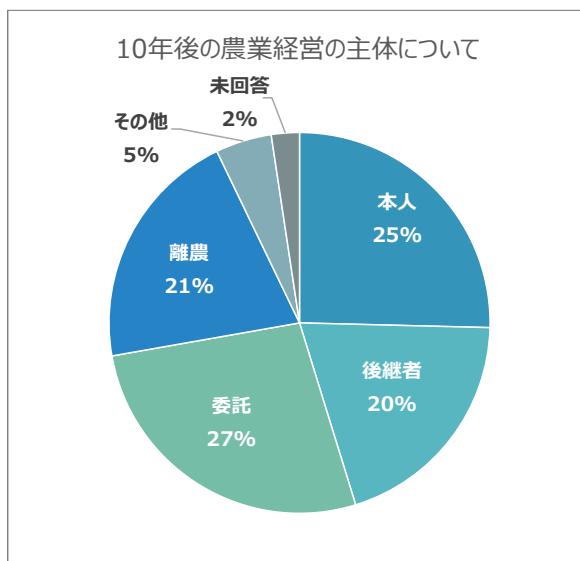
設問11. 10年後の農業経営の主体がどうなっていると考えるか

- 10年後の農業経営は「委託していると思う」が最も多い。
- 委託先の確保や委託制度の整備、担い手育成の強化など、農業経営の持続可能性を確保するための施策が必要である。

項目	票数	割合
本人	32	25%
後継者	25	20%
委託していると思う	34	27%
離農していると思う	26	21%
その他	6	5%
未回答	3	2%
	126	100%

その他の内容

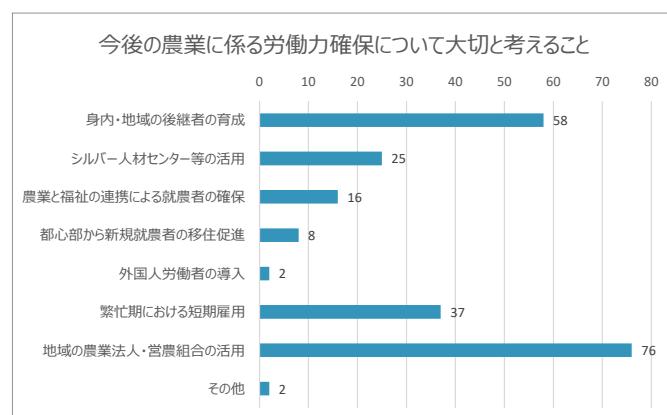
- わからない
- 農業組合法人で運営
- 作業員の変更等がある
- 縮小
- 農業生産者ではありません



設問12. 今後の農業に係る労働力の確保について大切なこと【複数回答】

- 農業に係る労働力の確保は「地域の農業法人・営農組合の活用」が最も多く、次いで「身内・地域の後継者の育成」が多い。
- 農業法人・営農組合の組織間の調整・連携、新たな担い手確保・育成が必要である。

項目	票数	割合
身内・地域の後継者の育成	58	46%
シルバー人材センター等の活用	25	20%
農業と福祉の連携による就農者の確保	16	13%
都心部から新規就農者の移住促進	8	6%
外国人労働者の導入	2	2%
繁忙期における短期雇用	37	29%
地域の農業法人・営農組合の活用	76	60%
その他	2	2%
	224	

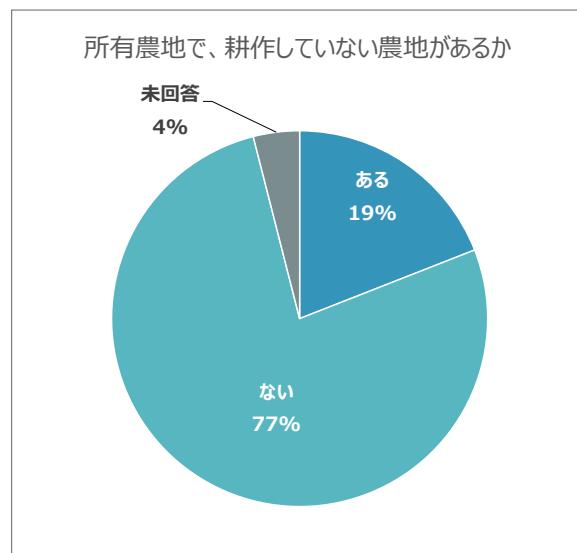


設問13. 所有している農地で耕作（利用）していない農地があるか

- 耕作していない農地は「ない」が最も多い。

項目	票数	割合
ある	24	19%
ない	97	77%
未回答	5	4%

126 100%



設問14. 耕作（利用）していない理由【複数回答】

※設問13で「ある」と回答した者のみ

- 耕作していない理由は「高齢化などにより労働力が不足しているから」が最も多い。
- 新たな担い手確保・育成が課題であると考える。

項目	票数	割合
高齢化などにより労働力が不足しているから	18	58%
土地条件が悪く耕作できないから	6	19%
農産物の価格が安く、農業経営が成り立たないから	5	16%
鳥獣による被害が多いから	2	6%
その他	0	0%

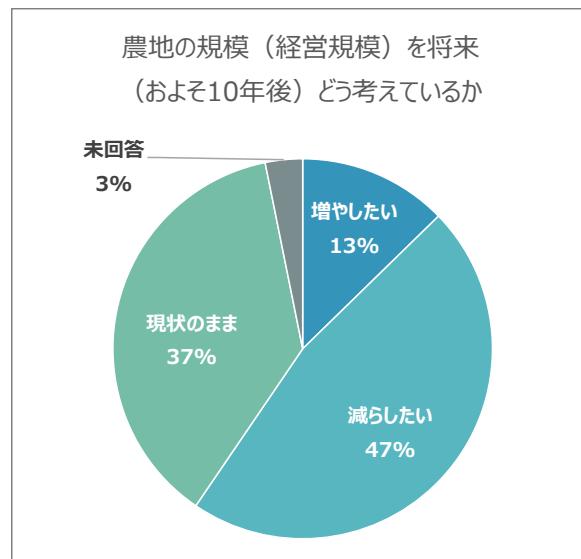
31 100%



設問15. 農地の規模（経営規模）を将来（およそ10年後）どう考えているか

- 将来の農地の規模は「減らしたい」が最も多い。
- 適切な農地集積や効率的な経営体制の構築に向けた施策の検討が課題であると考える。

項目	票数	割合
増やしたい	16	13%
減らしたい	59	47%
現状のまま	47	37%
未回答	4	3%
	126	100%



設問16. 増やしたい農地をどのように活用して農業経営をしていきたいか

※設問15で「増やしたい」と回答した者のみ

- 増やしたい農地の活用について「水稻の生産拡大」の「そう思う」が最も多い。
- 設問2で「米」の生産が最も多かったことから、今後も米の生産が増加する可能性がある。

	1		2		3		4		5		未回答	
	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合
水稻の生産拡大	10	50%	0	0%	2	10%	1	5%	7	35%	0	0%
今まで作ってきた野菜等の作付拡大	6	30%	1	5%	6	30%	0	0%	3	15%	4	20%
新たな作物の作付	4	20%	3	15%	5	25%	0	0%	4	20%	4	20%
食農教育・交流・講習場等としての作物の作付	4	20%	3	15%	2	10%	0	0%	6	30%	5	25%
その他	1	50%	0	0%	0	0%	0	0%	1	50%	0	0%

増やしたい農地をどのように活用して農業経営をしていきたいか

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

水稻の生産拡大 50% 10% 5% 35%

今まで作ってきた野菜等の作付拡大 30% 5% 30% 15% 20%

新たな作物の作付 20% 15% 25% 20% 20%

食農教育・交流・講習場等としての作物の作付 20% 15% 10% 30% 25%

その他 50% 50%

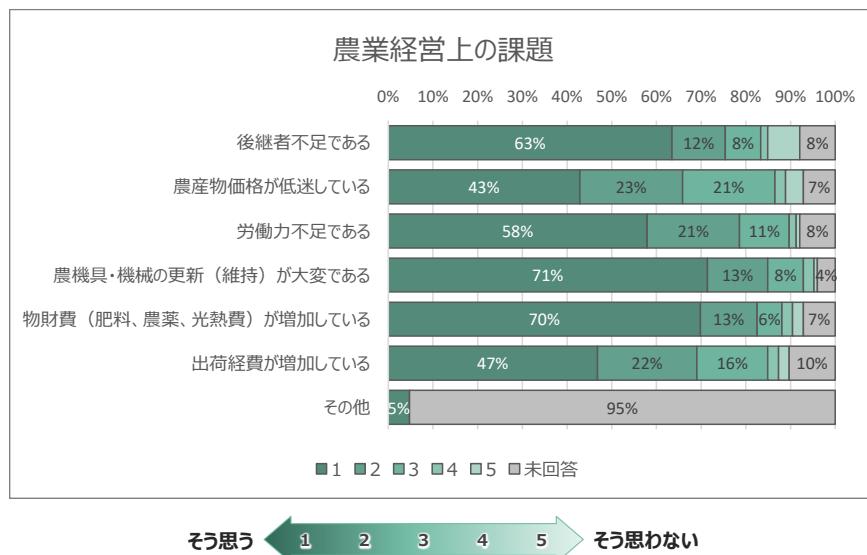
■1 ■2 ■3 ■4 ■5 □未回答

そう思う ← 1 2 3 4 5 → そう思わない

設問17. 農業経営上の課題

- 農業経営上の課題で「農機具・機械の更新（維持）が大変」の「そう思う」が最も多く、次いで、「物財費（肥料、農薬、光熱費）が増加している」が多い。農機具・機械の更新や維持に係る補助金制度の活用が課題であると考えられる。
- その他には「地球温暖化」に関する意見があり、気候変動が農業に及ぼす影響について課題意識を持つ回答者が多いと考える。

	1		2		3		4		5		未回答	
	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合
後継者不足である	80	63%	15	12%	10	8%	2	2%	9	7%	10	8%
農産物価格が低迷している	54	43%	29	23%	26	21%	3	2%	5	4%	9	7%
労働力不足である	73	58%	26	21%	14	11%	2	2%	1	1%	10	8%
農機具・機械の更新（維持）が大変である	90	71%	17	13%	10	8%	3	2%	1	1%	5	4%
物財費（肥料、農薬、光熱費）が増加している	88	70%	16	13%	7	6%	3	2%	3	2%	9	7%
出荷経費が増加している	59	47%	28	22%	20	16%	3	2%	3	2%	13	10%
その他	6	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	120	95%



その他の内容

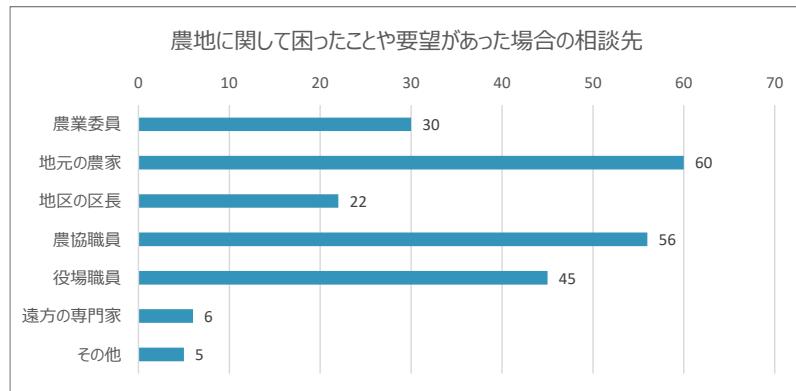
- 農業後継者と社会（サラリーマン）の複業
- 地域で法人化、集団化
- 作業効率を上げることが難しい
- 反収を増やす方針
- 温暖化が進む
- 地球温暖化により農作物を作るのが難しくなった

設問18. 農地に関して困ったことや要望があった場合の相談先【複数回答】

- 相談先は「地元の農家」が最も多く、次いで、「農協職員」が多い。
- 農地に関して困ったことは、町内で解決できるケースが多いと考える。

項目	票数	割合
農業委員	30	24%
地元の農家	60	48%
地区の区長	22	17%
農協職員	56	44%
役場職員	45	36%
遠方の専門家	6	5%
その他	5	4%

224



その他の内容

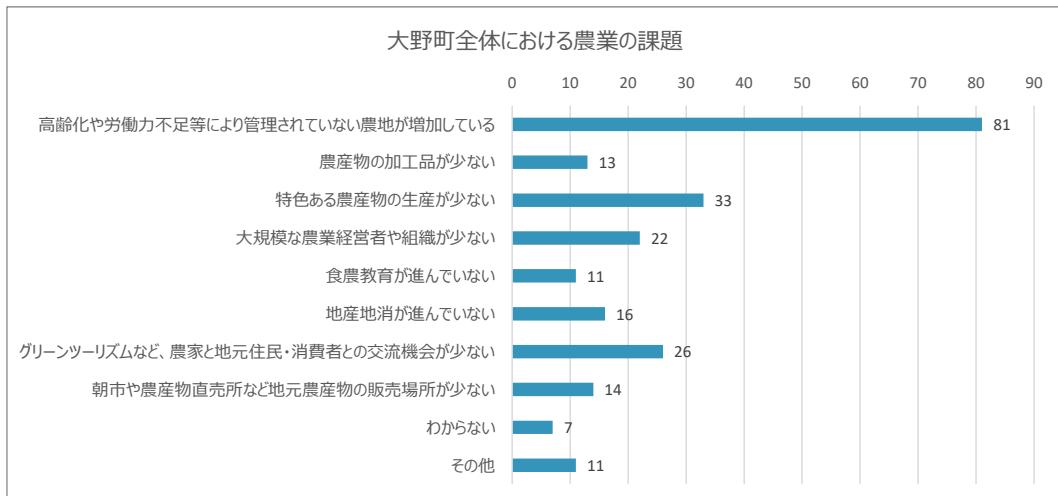
- 農機具について、農機具店
- 県職員
- 責任を持って行動する人
- 農業生産者ではありません
- ネット

設問19. 大野町全体における農業の課題【複数回答】

- 町の課題は「高齢化や労働力不足等により管理されていない農地が増加している」が最も多い。
- 担い手確保や農地集積、効率的な管理体制の構築など、地域農業の維持・活性化に向けた施策検討が課題であると考える。

項目	票数	割合
高齢化や労働力不足等により管理されていない農地が増加している	81	64%
農産物の加工品が少ない	13	10%
特色ある農産物の生産が少ない	33	26%
大規模な農業経営者や組織が少ない	22	17%
食農教育が進んでいない	11	9%
地産地消が進んでいない	16	13%
グリーンツーリズムなど、農家と地元住民・消費者との交流機会が少ない	26	21%
朝市や農産物直売所など地元農産物の販売場所が少ない	14	11%
わからない	7	6%
その他	11	9%

234



その他の内容

- 農業組合の後継者がいない。若手で余力のある人が継ぐべき。
- 家で消費するには余るが、農産物直売所へ持っていく程ではない。
- とれた野菜を給食センターで使うようにしてほしい。
- 農業に关心のある人を育てる
- 農業に対する近隣住民の理解が薄れている
- 特産品に対する補助がない
- 農業生産者ではありません

設問20. 農業を活かした都市や町民との交流を促進するため必要な取組【複数回答】

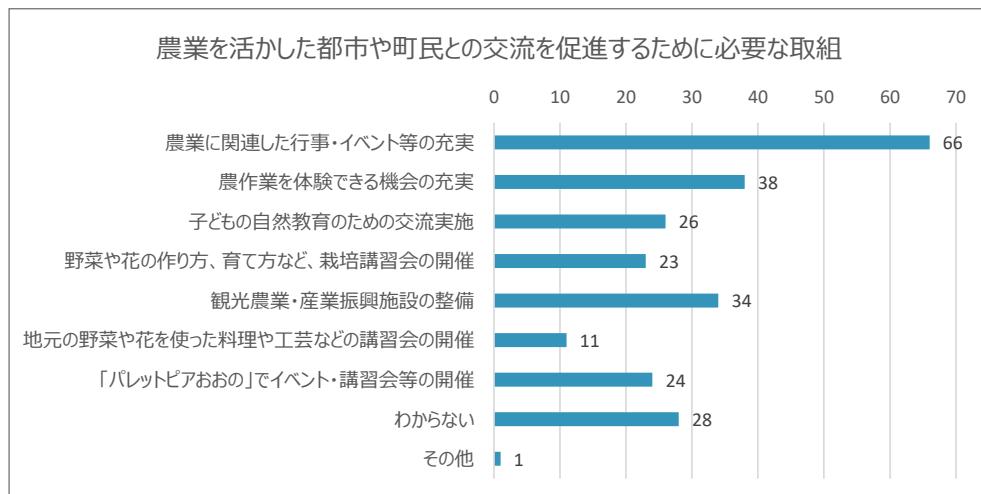
- 交流促進のために必要な取組は「農業に関連した行事・イベント等の充実」が最も多い。農業体験イベントや地域行事の企画・運営を通じた交流の場の充実が課題であると考える。
- 「農作業を体験できる機会の充実」や「施設の整備」の回答も多いことから、ハード・ソフト両方の取組が必要と考えられる。

項目	票数	割合
農業に関連した行事・イベント等の充実	66	52%
農作業を体験できる機会の充実	38	30%
子どもの自然教育のための交流実施	26	21%
野菜や花の作り方、育て方など、栽培講習会の開催	23	18%
観光農業・産業振興施設の整備	34	27%
地元の野菜や花を使った料理や工芸などの講習会の開催	11	9%
「パレットピアおおの」でイベント・講習会等の開催	24	19%
わからない	28	22%
その他	1	1%

251

その他の内容

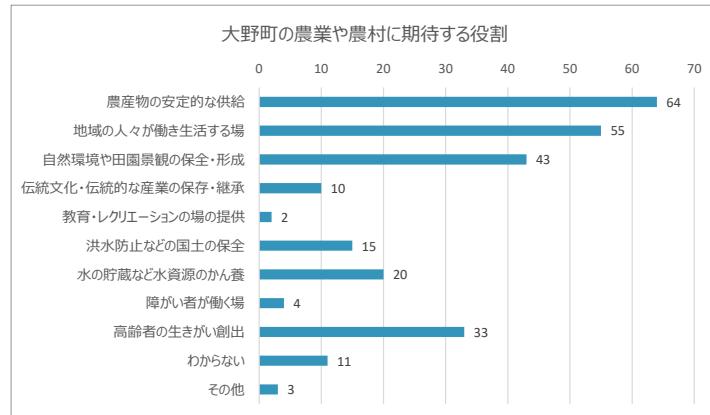
- JAの利用
- 農業に対する近隣住民の理解が薄れている
- 特産品に対する補助がない
- 農業生産者ではありません



設問21. 大野町の農業や農村に期待する役割【複数回答】

- 町の農業や農村に期待する役割は「農産物の安定的な供給」が最も多く、次いで、「地域の人々が働き生活する場」が多い。
- 安定的な供給ができる支援や、働きやすい環境が求められていると考える。

項目	票数	割合
農産物の安定的な供給	64	51%
地域の人々が働き生活する場	55	44%
自然環境や田園景観の保全・形成	43	34%
伝統文化・伝統的な産業の保存・継承	10	8%
教育・レクリエーションの場の提供	2	2%
洪水防止などの国土の保全	15	12%
水の貯蔵など水資源のかん養	20	16%
障がい者が働く場	4	3%
高齢者の生きがい創出	33	26%
わからない	11	9%
その他	3	2%
	260	



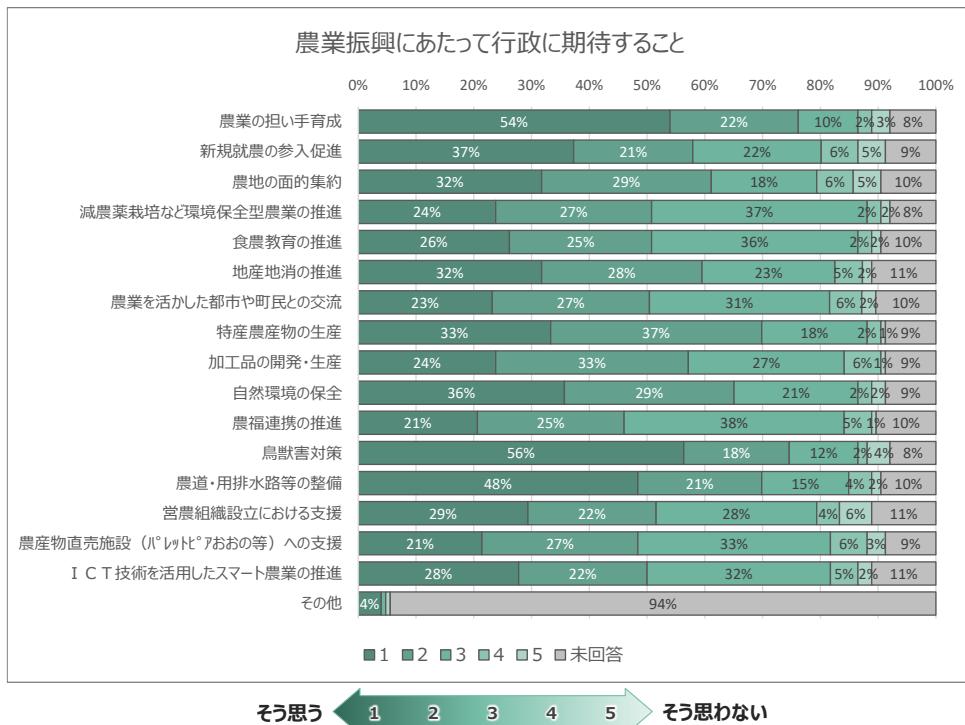
その他の内容

- 岐阜県の特産品は柿である。その下記の生産量のトップが大野町だが、今から行政と生産者がもっともっと力を入れて守る様、努力を惜しまないでいただきたい。
- 用水について、下の地区なので、用水が足りない日が多い。
- 農家、地域の崩壊を防ぐ
- 農業生産者ではありません

設問22. 農業振興にあたって行政に期待すること

- 農業振興にあたって行政に期待することは「鳥獣害対策」の「そう思う」が最も多い。
- 「農地の面的集約」や「農道・用排水路等の整備」などインフラに対する期待も大きい。
- 「農業の担い手育成」や「新規就農の参入促進」など担い手確保・育成に対する期待も大きい。

	1		2		3		4		5		未回答	
	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合
農業の担い手育成	68	54%	28	22%	13	10%	3	2%	4	3%	10	8%
新規就農の参入促進	47	37%	26	21%	28	22%	8	6%	6	5%	11	9%
農地の面的集約	40	32%	37	29%	23	18%	8	6%	6	5%	12	10%
減農薬栽培など環境保全型農業の推進	30	24%	34	27%	47	37%	3	2%	2	2%	10	8%
食農教育の推進	33	26%	31	25%	45	36%	3	2%	2	2%	12	10%
地産地消の推進	40	32%	35	28%	29	23%	6	5%	2	2%	14	11%
農業を活かした都市や町民との交流	29	23%	34	27%	39	31%	7	6%	3	2%	13	10%
特産農産物の生産	42	33%	46	37%	23	18%	3	2%	1	1%	11	9%
加工品の開発・生産	30	24%	42	33%	34	27%	8	6%	1	1%	11	9%
自然環境の保全	45	36%	37	29%	27	21%	3	2%	3	2%	11	9%
農福連携の推進	26	21%	32	25%	48	38%	6	5%	1	1%	13	10%
鳥獣害対策	71	56%	23	18%	15	12%	2	2%	5	4%	10	8%
農道・用排水路等の整備	61	48%	27	21%	19	15%	5	4%	2	2%	12	10%
営農組織設立における支援	37	29%	28	22%	35	28%	5	4%	7	6%	14	11%
農産物直売施設（ハレッピーアおおの等）への支援	27	21%	34	27%	42	33%	8	6%	4	3%	11	9%
I C T 技術を活用したスマート農業の推進	35	28%	28	22%	40	32%	6	5%	3	2%	14	11%
その他	5	4%	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	119	94%



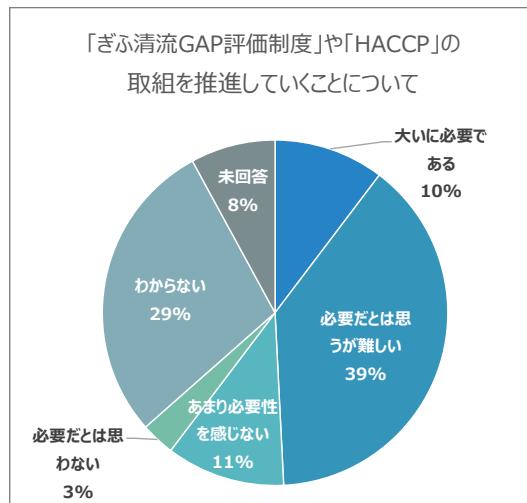
その他の内容

- 全農地集団営農に貸し出すのではなく、一部老後の楽しみのため、自家消費できる野菜等を作りたい。
- 放任園対策
- 高温対策（水、気温）。夏場は水がまったく足らない、現地寺の水利確保できない。
- 農業をやる担い手に町が補助金を出して援助すべきだ
- 地域の活性化

設問23. 「ぎふ清流 GAP 評価制度」や「HACCP」の取組を推進していくこと

- ・「ぎふ清流 GAP 評価制度」や「HACCP」の取組に対して、「必要だとは思うが難しい」が多い。
- ・制度の必要性は認識されているものの、導入・運用は困難であると感じている回答者が多いことが考えられる。

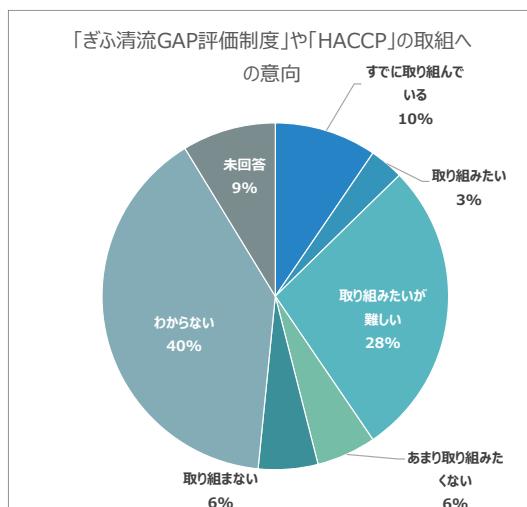
項目	票数	割合
大いに必要である	13	10%
必要だとは思うが難しい	49	39%
あまり必要性を感じない	14	11%
必要だとは思わない	4	3%
わからない	36	29%
未回答	10	8%
	126	100%



設問24. 「ぎふ清流 GAP 評価制度」や「HACCP」の取組への意向

- ・「ぎふ清流 GAP 評価制度」や「HACCP」の取組の意向について、「わからない」が最も多い。
- ・制度の周知・情報提供、導入支援の体制整備が課題であると考えられる。

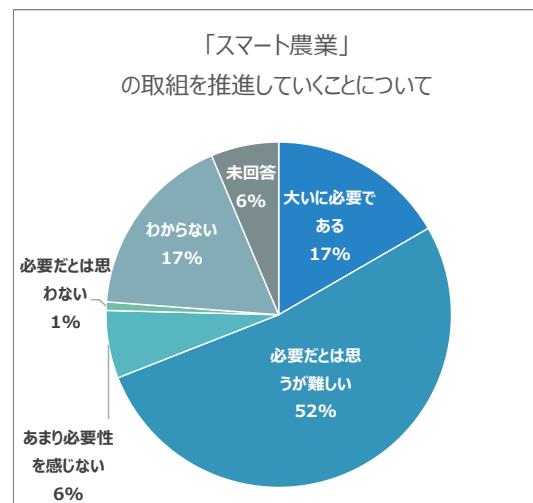
項目	票数	割合
すでに取り組んでいる	12	10%
取り組みたい	4	3%
取り組みたいが難しい	35	28%
あまり取り組みたくない	7	6%
取り組まない	7	6%
わからない	50	40%
未回答	11	9%
	126	100%



設問25. 「スマート農業」の取組を推進していくこと

- ・「スマート農業」の取組は「必要だと思うが難しい」が最も多い。
- ・「スマート農業」の必要性は認識されているものの、導入・運用は困難であると感じている回答者が多いことが考えられる。

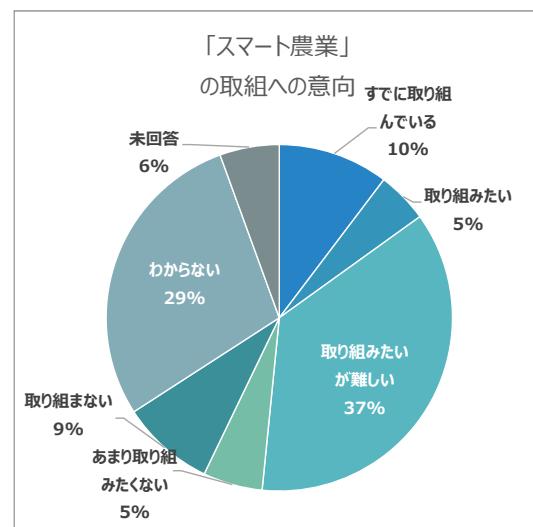
項目	票数	割合
大いに必要である	21	17%
必要だとは思うが難しい	66	52%
あまり必要性を感じない	8	6%
必要だとは思わない	1	1%
わからない	22	17%
未回答	8	6%
	126	100%



設問26. 「スマート農業」の取組への意向

- ・「スマート農業」の取組の意向について、「取り組みたいが難しい」が最も多い。
- ・「スマート農業」の導入支援の検討が課題であると考えられる。

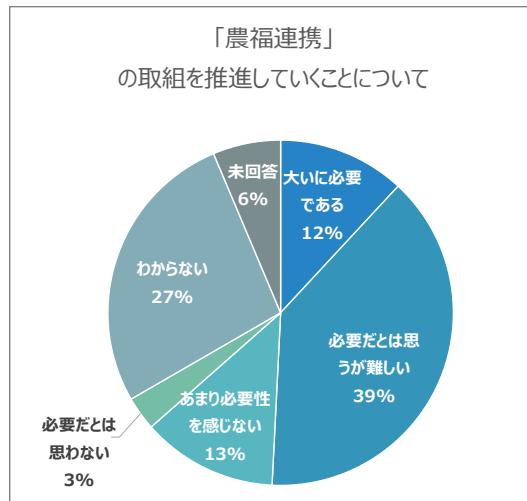
項目	票数	割合
すでに取り組んでいる	13	10%
取り組みたい	6	5%
取り組みたいが難しい	46	37%
あまり取り組みたくない	7	6%
取り組まない	11	9%
わからない	36	29%
未回答	7	6%
	126	100%



設問27. 「農福連携」の取組を推進していくこと

- ・「農福連携」の取組は「必要だと思うが難しい」が最も多い。
- ・「農福連携」の取組を推進するにあたり、関係各課や福祉事業者との連携体制の構築が課題であると考えられる。

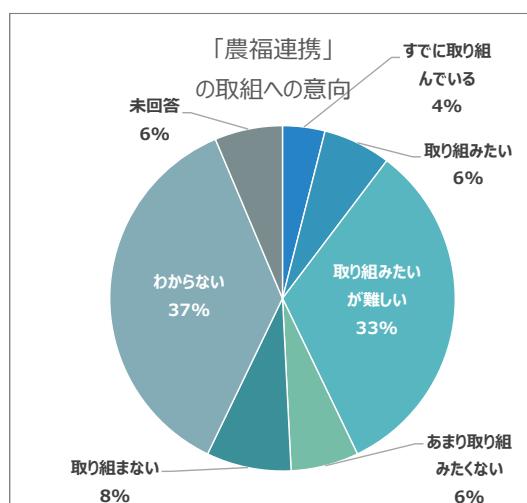
項目	票数	割合
大いに必要である	15	12%
必要だとは思うが難しい	49	39%
あまり必要性を感じない	16	13%
必要だとは思わない	4	3%
わからない	34	27%
未回答	8	6%
	126	100%



設問28. 「農福連携」の取組への意向

- ・「農福連携」の取組の意向について、「わからない」が最も多い。
- ・「農福連携」の周知・情報提供や導入支援の体制整備が課題であると考えられる。

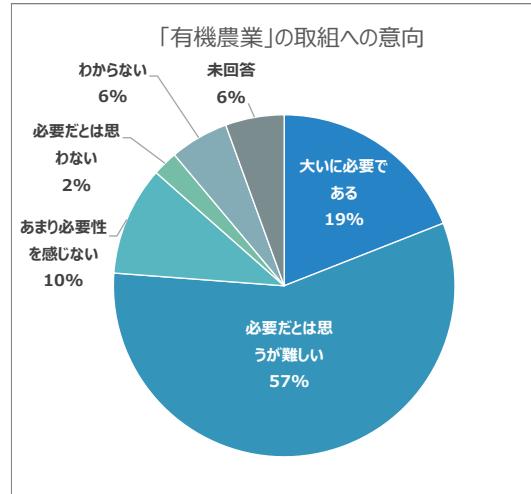
項目	票数	割合
すでに取り組んでいる	5	4%
取り組みたい	8	6%
取り組みたいが難しい	41	33%
あまり取り組みたくない	8	6%
取り組まない	10	8%
わからない	46	37%
未回答	8	6%
	126	100%



設問29. 「有機農業」の取組を推進していくこと

- 「有機農業」の取組は「必要だと思うが難しい」が最も多い。
- 「有機農業」の必要性は認識されているものの、導入は困難であると感じている回答者が多いことが考えられる。

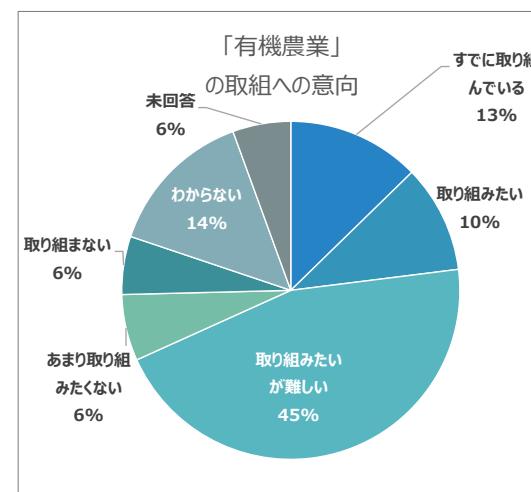
項目	票数	割合
大いに必要である	24	19%
必要だとは思うが難しい	72	57%
あまり必要性を感じない	13	10%
必要だとは思わない	3	2%
わからない	7	6%
未回答	7	6%
	126	100%



設問30. 「有機農業」の取組への意向

- 「有機農業」の取組の意向について、「取り組みたいが難しい」が最も多い。
- 「有機農業」の導入支援の体制整備が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
すでに取り組んでいる	16	13%
取り組みたい	13	10%
取り組みたいが難しい	57	45%
あまり取り組みたくない	8	6%
取り組まない	7	6%
わからない	18	14%
未回答	7	6%
	126	100%



4. 調査結果（消費者）

以下に消費者における調査結果を示す。回答数 275 票である。

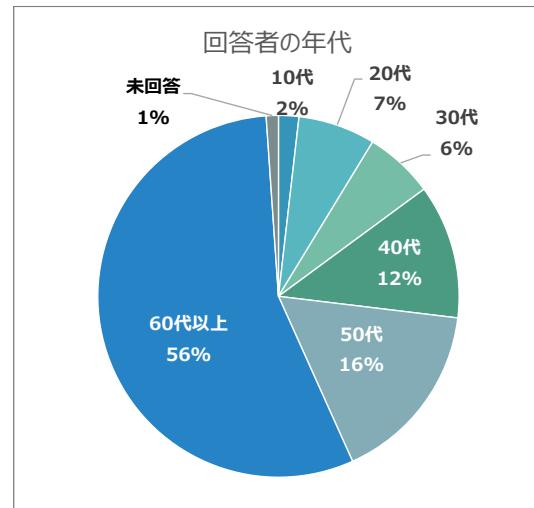
設問1. 回答者について

年代

- 「60 代以上」が最も多い。

項目	票 数	割 合
10代	5	2%
20代	19	7%
30代	17	6%
40代	33	12%
50代	45	16%
60代以上	153	56%
未回答	3	1%

275 100%

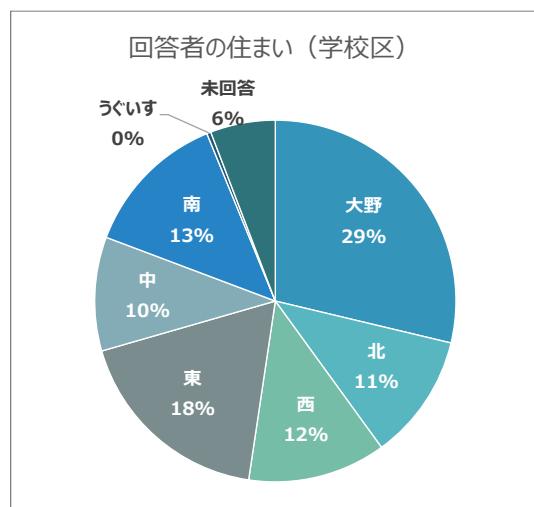


住まい（学校区単位）

- 「大野」小学校区が最も多い。

項目	票 数	割 合
大野	79	29%
北	31	11%
西	34	12%
東	50	18%
中	28	10%
南	36	13%
うぐいす	1	0%
未回答	16	6%

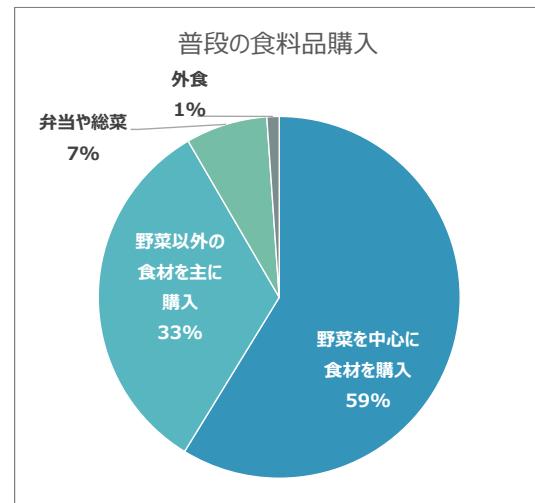
275 100%



設問2. 普段の食料品購入について

- 普段の食料品購入は「野菜を中心に食材を購入」が最も多い。
- 町内で積極的に野菜が消費されていると考える。

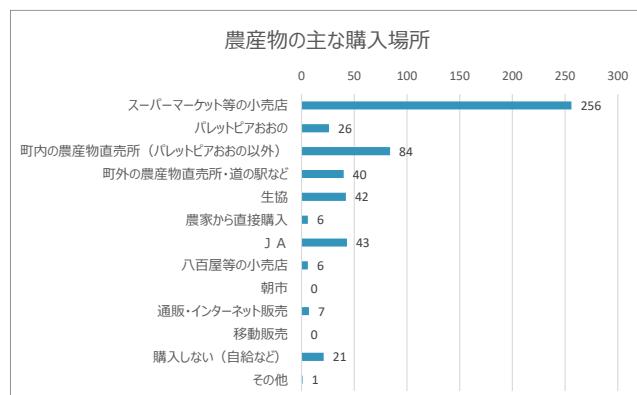
項目	票数	割合
食材を購入することが多く、野菜を主に購入するよう心がけている	161	59%
食材を購入することは多いが、あまり野菜は購入しない	90	33%
弁当や惣菜を購入することが多い	20	7%
外食することが多い	3	1%
未回答	1	0%
	275	100%



設問3. 農産物の主な購入場所【複数回答】

- 農産物の主な購入場所は「スーパーマーケット等の小売店」が最も多い。
- 「町内の農産物直売所」での購入も多く、農林畜産物直売所によってみーな大野等が積極的に利用されていると考える。

項目	票数	割合
スーパーマーケット等の小売店	256	93%
パレットピアおおの	26	9%
町内の農産物直売所（パレットピアおおの以外）	84	31%
町外の農産物直売所・道の駅など	40	15%
生協	42	15%
農家から直接購入	6	2%
J A	43	16%
八百屋等の小売店	6	2%
朝市	0	0%
通販・インターネット販売	7	3%
移動販売	0	0%
購入しない（自給など）	21	8%
その他	1	0%
	532	



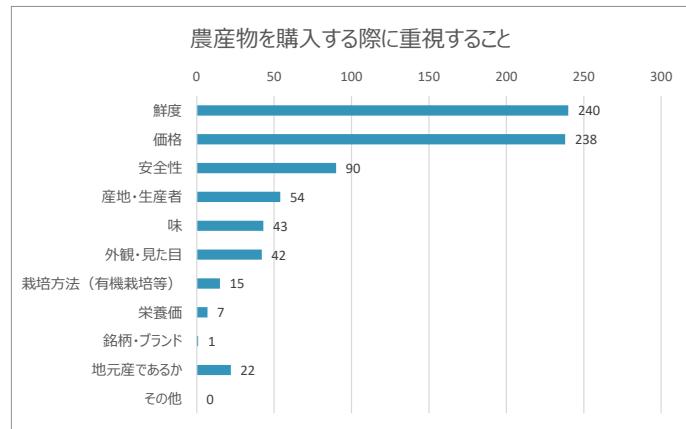
その他の内容

- 知人からもらう
- 町外に住み父母

設問4. 農産物を購入する際に重視すること【複数回答】

- 農産物を購入する際に重視することは「鮮度」が最も多い。同時に「価格」も重視している。
- 銘柄・ブランドについてはあまり重視されていない。

項目	票数	割合
鮮度	240	87%
価格	238	87%
安全性	90	33%
産地・生産者	54	20%
味	43	16%
外観・見た目	42	15%
栽培方法（有機栽培等）	15	5%
栄養価	7	3%
銘柄・ブランド	1	0%
地元産であるか	22	8%
その他	0	0%
752		



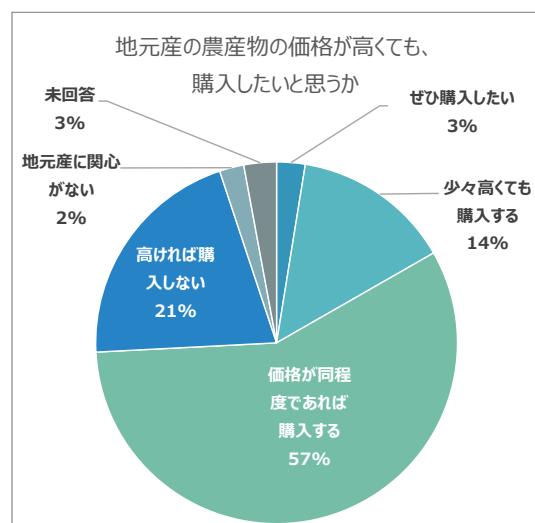
その他の内容

- 農家にお金が入ってほしいが、景気的に多くは支払いが難しい。もっと町内の直売所を利用したい。

設問5. 地元産の農産物の価格が高くても、購入したいと思うか

- 地元産の農産物の価格が高くても購入したいかは「価格が同程度であれば購入する」が最も多い。設問4で「価格」を重視している傾向が当設問にも見られた。

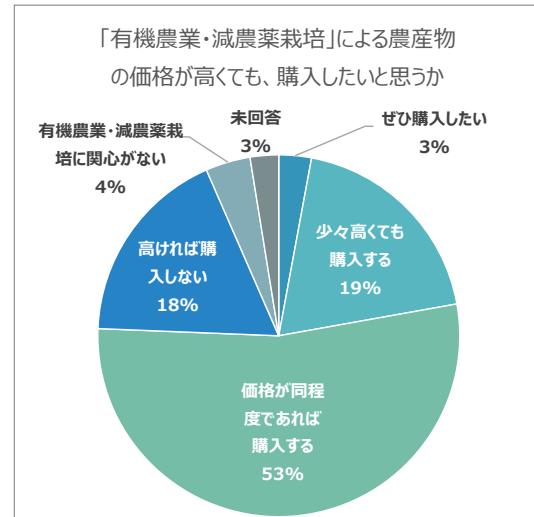
項目	票数	割合
ぜひ購入したい	7	3%
少々高くても購入する	39	14%
価格が同程度であれば購入する	158	57%
高ければ購入しない	57	21%
地元産に関心がない	6	2%
未回答	8	3%
275 100%		



設問6. 「有機農業・減農薬栽培」による農作物の価格が高くても購入したいか

・「有機農業・減農薬栽培」による農作物の価格が高くても購入したいかは「価格が同程度であれば購入する」が最も多い。設問4で「価格」を重視している傾向が当設問にも見られた。

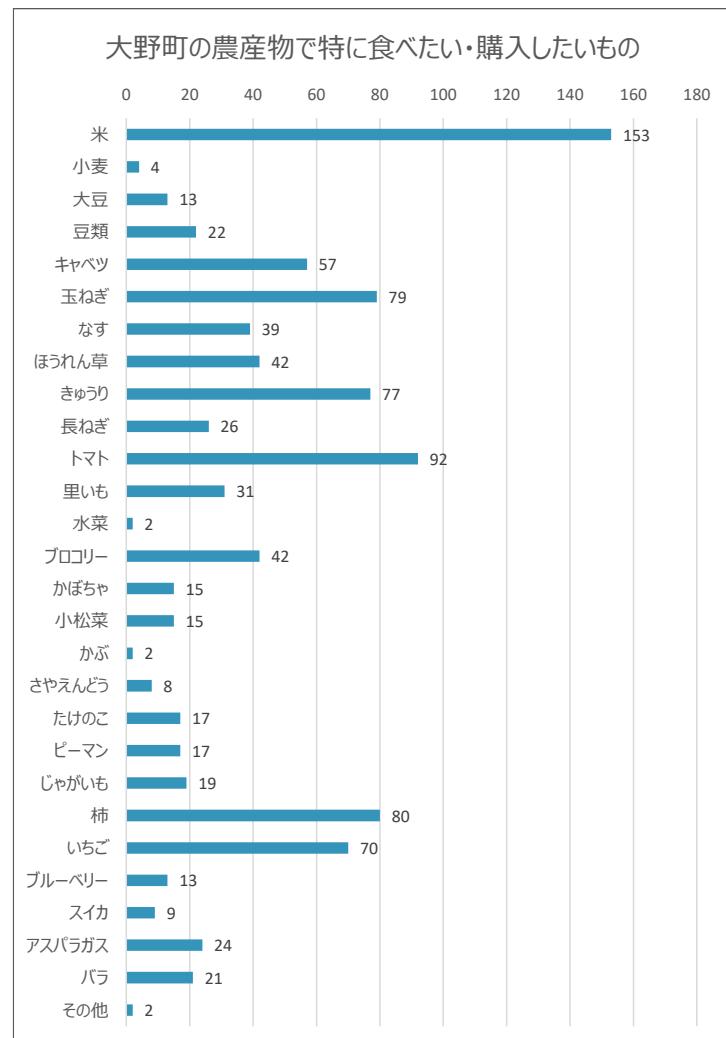
項目	票数	割合
ぜひ購入したい	8	3%
少々高くても購入する	53	19%
価格が同程度であれば購入する	147	53%
高ければ購入しない	49	18%
有機農業・減農薬栽培に関心がない	11	4%
未回答	7	3%
	275	100%



設問7. 大野町の農産物で特に食べたい・購入したいもの【複数回答】

- ・大野町の特産物で特に食べたい、購入したいものは「米」が最も多い。
- ・生産者アンケートの結果で、生産されている品目で多かったのも「米」であったため、生産が盛んな品目について「食べたい・購入したい」と感じる消費者が多いと考える。

項目	票数	割合
米	153	56%
小麦	4	1%
大豆	13	5%
豆類	22	8%
キャベツ	57	21%
玉ねぎ	79	29%
なす	39	14%
ほうれん草	42	15%
きゅうり	77	28%
長ねぎ	26	9%
トマト	92	33%
里いも	31	11%
水菜	2	1%
ブロッコリー	42	15%
かぼちゃ	15	5%
小松菜	15	5%
かぶ	2	1%
さやえんどう	8	3%
たけのこ	17	6%
ピーマン	17	6%
じゃがいも	19	7%
柿	80	29%
いちご	70	25%
ブルーベリー	13	5%
スイカ	9	3%
アスパラガス	24	9%
バラ	21	8%
その他	2	1%
	991	



その他の内容

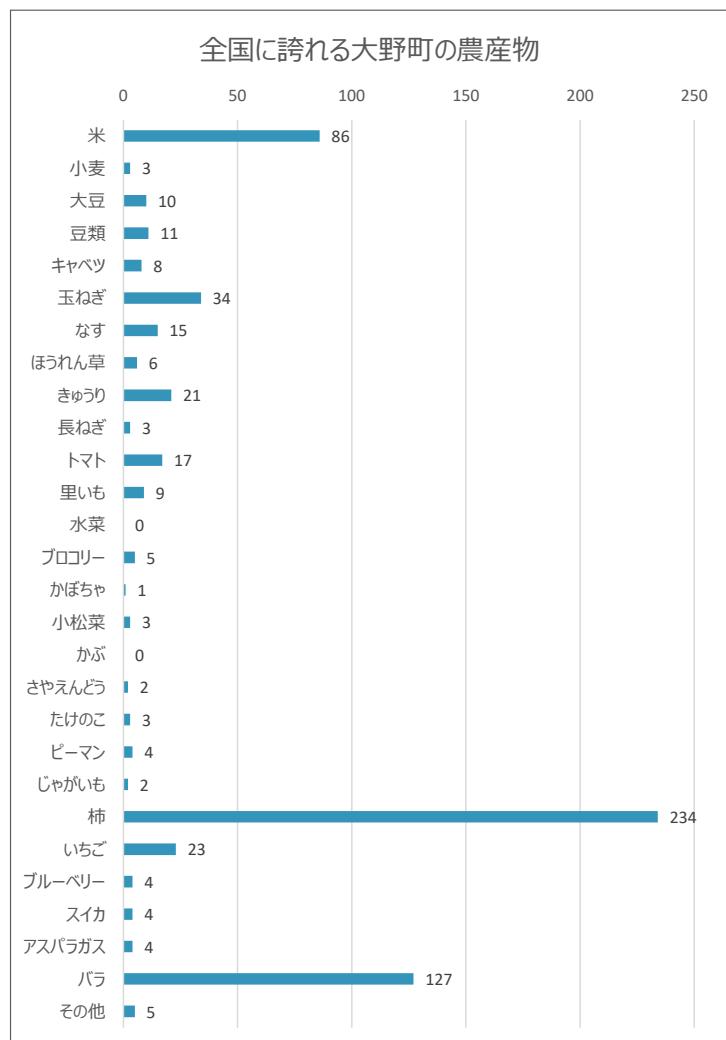
- ・なし
- ・ぶどう、シャインマスカット
- ・パイナップル
- ・特にない

設問8. 全国に誇れる大野町の農産物【複数回答】

- 全国に誇れる大野町の農産物は「柿」が最も多く、次いで、「バラ」が多い。
- 回答数が多い「柿」「バラ」は町の“特産品”であるため、特産品について前向きな考え方を持つ消費者が多いと考える。

項目	票数	割合
米	86	31%
小麦	3	1%
大豆	10	4%
豆類	11	4%
キャベツ	8	3%
玉ねぎ	34	12%
なす	15	5%
ほうれん草	6	2%
きゅうり	21	8%
長ねぎ	3	1%
トマト	17	6%
里いも	9	3%
水菜	0	0%
ブロコリー	5	2%
かぼちゃ	1	0%
小松菜	3	1%
かぶ	0	0%
さやえんどう	2	1%
たけのこ	3	1%
ピーマン	4	1%
じゃがいも	2	1%
柿	234	85%
いちご	23	8%
ブルーベリー	4	1%
スイカ	4	1%
アスパラガス	4	1%
バラ	127	46%
その他	5	2%

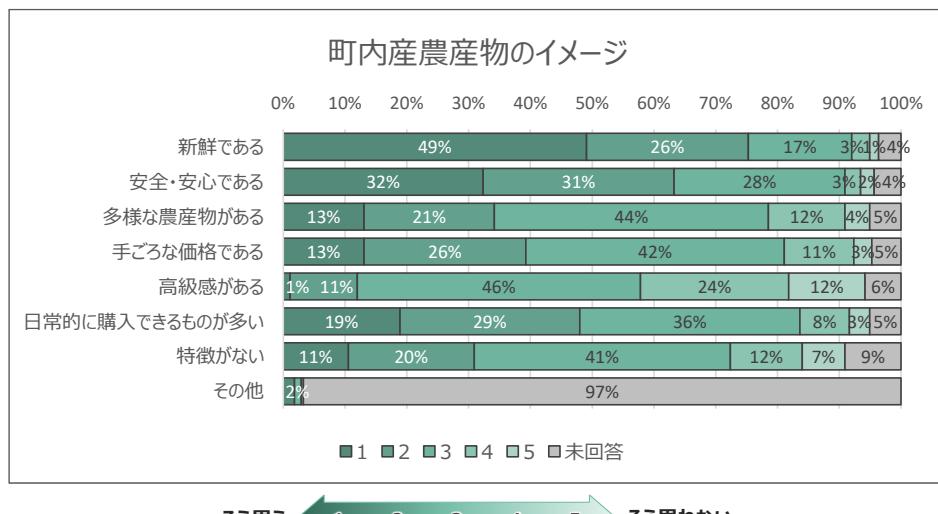
644



設問9. 町内産農産物のイメージ

- 町内産農産物のイメージは「新鮮である」の「そう思う」が最も多い。
- 設問4で「鮮度」を重視していることも踏まえ、町内産農産物に対して前向きなイメージを持つ消費者が多いと考える。

	1		2		3		4		5		未回答	
	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合	票 数	割 合
新鮮である	135	49%	72	26%	46	17%	1	3%	0	1%	5	4%
安全・安心である	89	32%	85	31%	76	28%	3	3%	1	2%	5	4%
多様な農産物がある	36	13%	58	21%	122	44%	7	12%	3	4%	7	5%
手ごろな価格である	36	13%	72	26%	115	42%	5	11%	2	3%	5	5%
高級感がある	3	1%	30	11%	126	46%	10	24%	10	12%	6	6%
日常的に購入できるものが多い	52	19%	80	29%	98	36%	2	8%	1	3%	6	5%
特徴がない	29	11%	56	20%	114	41%	6	12%	3	7%	8	9%
その他	5	2%	0	0%	3	1%	0	0%	0	0%	56	97%



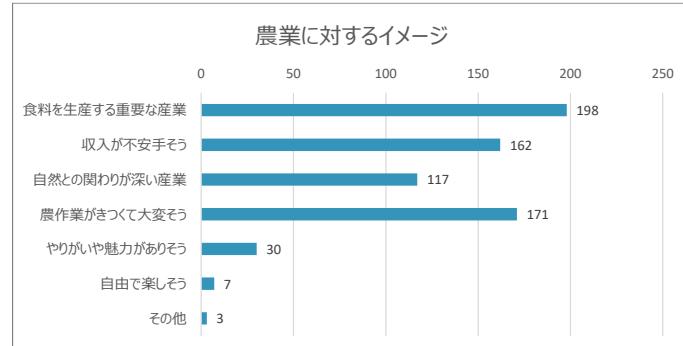
その他の内容

- 何でもそろっている
- 柿以外ない
- 皆に知れ渡っていない (農産物)
- 生産者の顔が見えない

設問10. 農業に対するイメージ

- 農業に対するイメージは「食料を生産する重要な産業」が最も多く、次いで、「農作業がきつくて大変そう」が多い。「必要性」を感じながらも、消極的なイメージが強い傾向にある。

項目	票数	割合
食料を生産する重要な産業	198	72%
収入が不安手そう	162	59%
自然との関わりが深い産業	117	43%
農作業がきつくて大変そう	171	62%
やりがいや魅力がありそう	30	11%
自由で楽しそう	7	3%
その他	3	1%
	688	



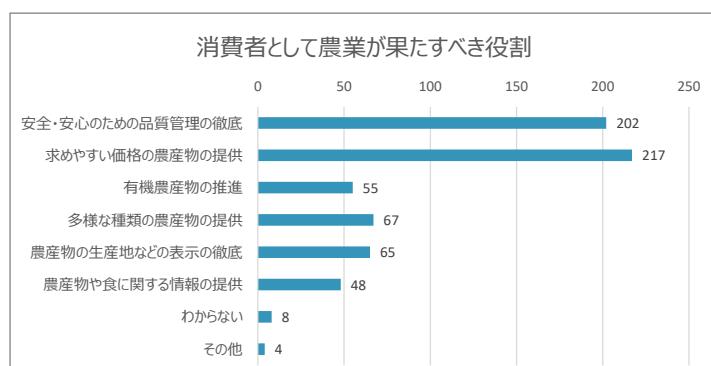
その他の内容

- 気候や暑さなどによって左右され、大変そう。
- 農道等の脇、草が道路に出てる。手入れ不足。
- 常に個人においてなされた発展性に欠ける産業

設問11. 消費者として農業が果たすべき役割【複数回答】

- 消費者として農業が果たすべき役割は「求めやすい価格の農産物の提供」が最も多く、次いで、「安全・安心のための品質管理の徹底」が多い。
- 設問4で重視している「鮮度」「価格」が当設問にも関係していると考える。

項目	票数	割合
安全・安心のための品質管理の徹底	202	73%
求めやすい価格の農産物の提供	217	79%
有機農産物の推進	55	20%
多様な種類の農産物の提供	67	24%
農産物の生産地などの表示の徹底	65	24%
農産物や食に関する情報の提供	48	17%
わからない	8	3%
その他	4	1%
	666	



その他の内容

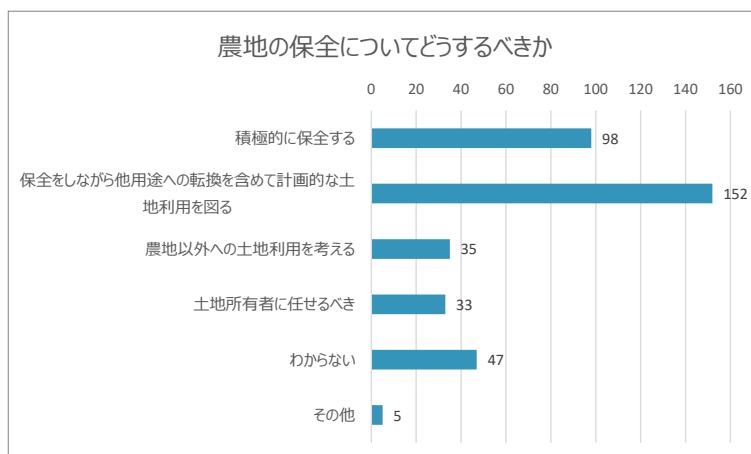
- 自給自足出来る無料借地
- 作り方の表示をしてほしい
- 味
- 農家の収入安定
- 全国に誇れる町の特産品の生産
- 北の方にも直売所を整理して欲しい。パレットピアまでは遠い。

設問12. 農地の保全についてどうすべきか【複数回答】

- 農地の保全については「保全をしながら他用途への転換を含めて計画的な土地利用を図る」が最も多い。
- 「積極的に保全する」の回答も多いことから、農地の保全について前向きな考えを持つ消費者が多いと考える。

項目	票数	割合
積極的に保全する	98	36%
保全をしながら他用途への転換を含めて計画的な土地利用を図る	152	55%
農地以外への土地利用を考える	35	13%
土地所有者に任せるべき	33	12%
わからない	47	17%
その他	5	2%

370



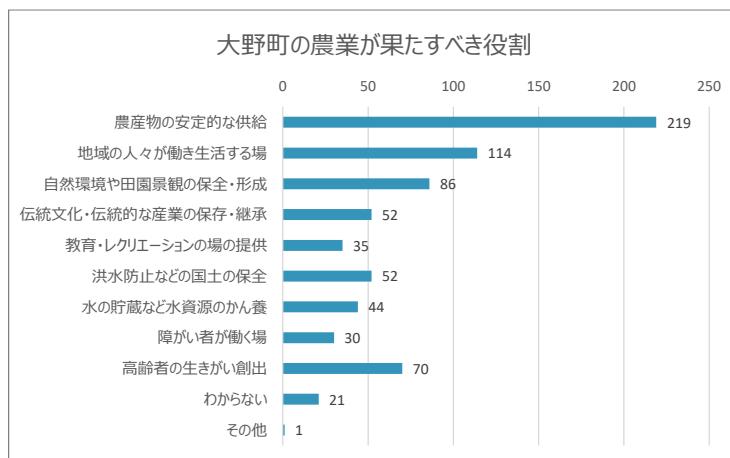
その他の内容

- 国内自給率が低い以上、町内である程度まかなえる農地を保全していく必要があると考える。
- 農地の活用
- 工場・会社・子育てに関係する施設等への誘致。農地に太陽光発電所への誘致はしない。
- これ以上の作用途化は不要
- 行政が個人資産に関与すべきでない
- 高齢の方には、積極的保全活動

設問13. 大野町の農業が果たすべき役割【複数回答】

- 大野町の農業が果たすべき役割は「農産物の安定的な供給」が最も多い。

項目	票数	割合
農産物の安定的な供給	219	80%
地域の人々が働き生活する場	114	41%
自然環境や田園景観の保全・形成	86	31%
伝統文化・伝統的な産業の保存・継承	52	19%
教育・レクリエーションの場の提供	35	13%
洪水防止などの国土の保全	52	19%
水の貯蔵など水資源のかん養	44	16%
障がい者が働く場	30	11%
高齢者の生きがい創出	70	25%
わからない	21	8%
その他	1	0%
	724	



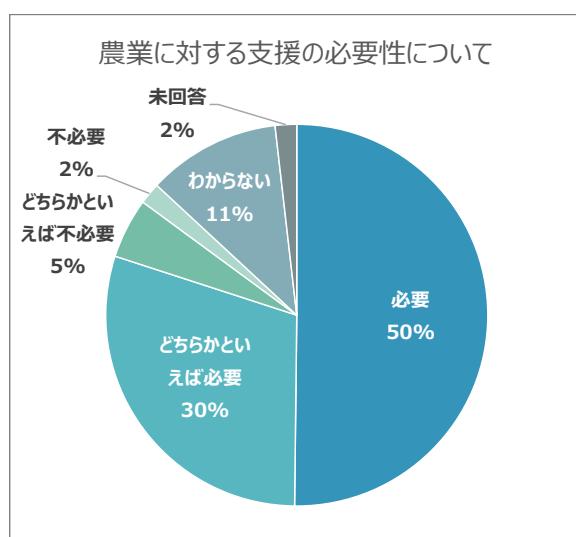
その他の内容

- 教育は、若者への継承につなげるため
- 題目が大きすぎて選択肢はない
- 若者への農業参入の促進

設問14. 農業に対する支援の必要性について

- 農業に対する支援の必要性は「農業振興のため支援が必要である」が最も多い。「どちらかといえば支援が必要である」も合わせると8割の回答者が支援について前向きであると考える。

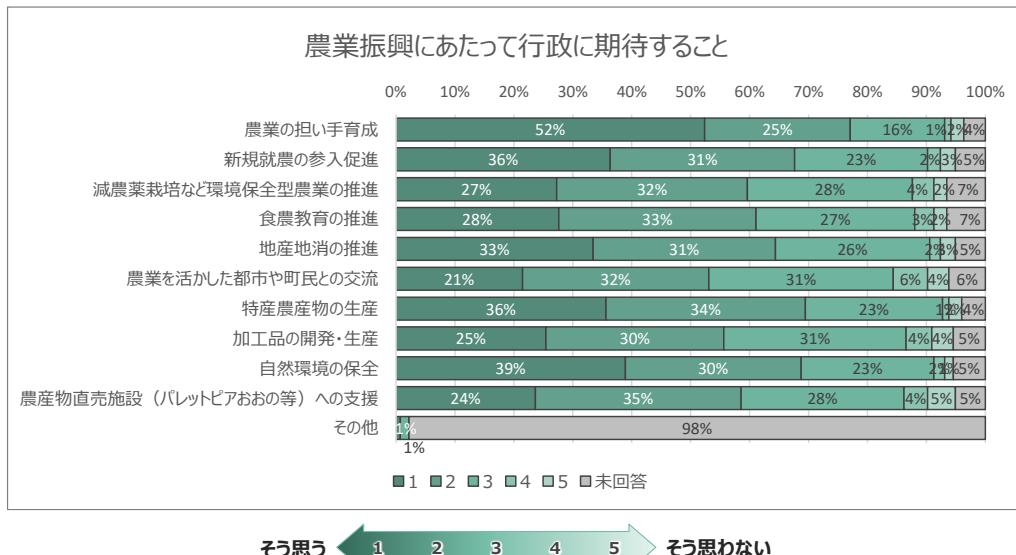
項目	票数	割合
農業振興のため支援が必要である	138	50%
どちらかといえば支援が必要である	82	30%
どちらかといえば支援は必要だとは思わない	14	5%
支援は必要だとは思わない	5	2%
わからない	31	11%
未回答	5	2%
	275	100%



設問15. 農業振興にあたって行政に期待することは何か

- 農業振興にあたって行政に期待することは「農業の担い手育成」の「そう思う」が最も多い。
- 「自然環境の保全」の「そう思う」も多く、環境に配慮した農業や地域の自然を守る取組への関心が高いことが考えられる。

	1		2		3		4		5		未回答	
	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合	票数	割合
農業の担い手育成	144	52%	68	25%	44	16%	3	1%	6	2%	10	4%
新規就農の参入促進	100	36%	86	31%	62	23%	6	2%	7	3%	14	5%
減農薬栽培など環境保全型農業の推進	75	27%	89	32%	77	28%	10	4%	6	2%	18	7%
食農教育の推進	76	28%	92	33%	74	27%	9	3%	6	2%	18	7%
地産地消の推進	92	33%	85	31%	72	26%	5	2%	7	3%	14	5%
農業を活かした都市や町民との交流	59	21%	87	32%	86	31%	16	6%	10	4%	17	6%
特産農産物の生産	98	36%	93	34%	64	23%	3	1%	6	2%	11	4%
加工品の開発・生産	70	25%	83	30%	85	31%	12	4%	10	4%	15	5%
自然環境の保全	107	39%	82	30%	62	23%	5	2%	4	1%	15	5%
農産物直売施設（パレットピアおおの等）への支援	65	24%	96	35%	76	28%	11	4%	13	5%	14	5%
その他	2	1%	0	0%	4	1%	0	0%	0	0%	269	98%



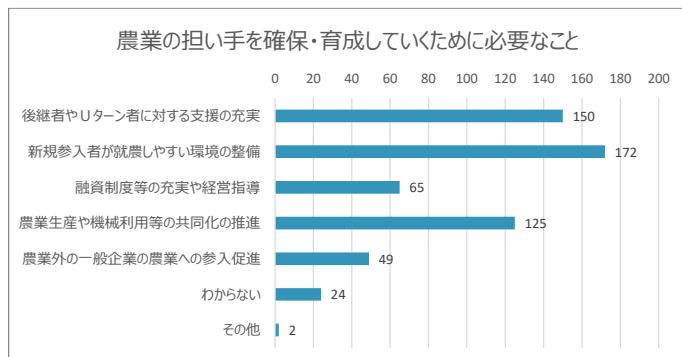
その他の内容

- PR の支援
- JA よってみいな等の支援
- 他県へのアピール

設問16. 農業の担い手を確保・育成していくために必要なこと【複数回答】

- 農業の担い手を確保・育成していくために必要なことは「新規参入者が就農しやすい環境の整備」が最も多く、次いで、「後継者やUターン者に対する支援の充実」が多い。
- 新たに農業を始める人材や地域に戻って農業に従事する人材の確保・育成が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
後継者やUターン者に対する支援の充実	150	55%
新規参入者が就農しやすい環境の整備	172	63%
融資制度等の充実や経営指導	65	24%
農業生産や機械利用等の共同化の推進	125	45%
農業外の一般企業の農業への参入促進	49	18%
わからない	24	9%
その他	2	1%
587		



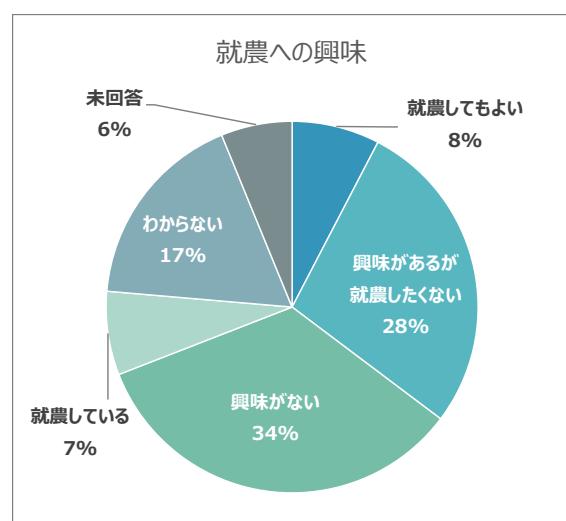
その他の内容

- 子供が学校へ行っている間だけなど、主婦などの隙間時間を活かした人材の有効をきかせる。
例：報酬をできた野菜などにする+税負担にならない程度の賃金。
- 農機械の貸し出し
- このようなことは国や県がやるべき

設問17. 就農への興味の有無

- 就農への興味については「興味がない」が最も多い。
- 「就農したくない」も合わせると6割の回答者が就農に対して否定的である。

項目	票数	割合
興味があり就農してもよいと思う	21	8%
興味があるが就農したいと思わない	76	28%
就農に興味がない	93	34%
既に就農している	20	7%
わからない	48	17%
未回答	17	6%
275		100%



設問18. 就農にあたって必要な支援

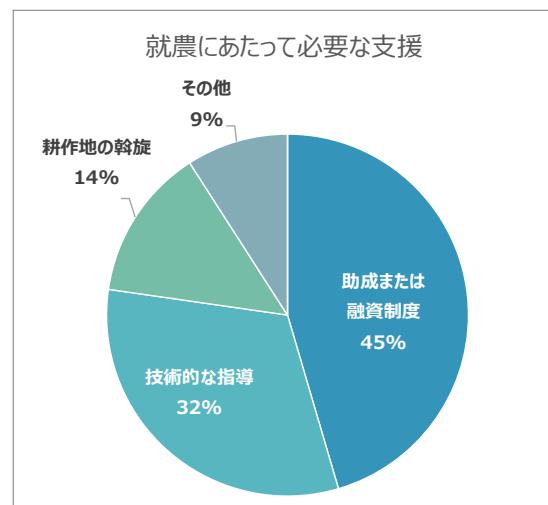
※設問17で「興味があり就農してもよいと思う」と回答した者のみ

- 就農にあたって必要な支援は「営農に必要な設備への助成または融資制度」が最も多い。
- 生産者アンケート設問17にあたって、「機械の更新（維持）が大変」という意見からも、機械等の必要な設備に対する助成または融資を求めていると考える。

項目	票数	割合
営農に必要な設備への助成または融資制度	10	45%
技術的な指導	7	32%
耕作地の斡旋	3	14%
経営手法の指導	0	0%
その他	2	9%
	22	100%

その他の内容

- 体力不足
- 自立した生活確保



設問19. 就農したいと思わない理由

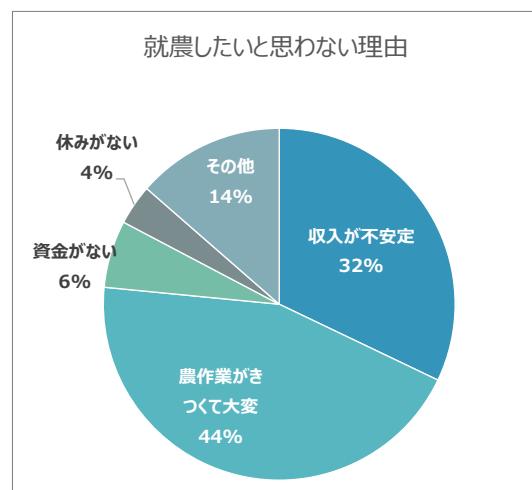
※設問17で「興味があるが就農したいと思わない」と回答した者のみ

- 興味があるが就農したいと思わない理由は「農作業がきつくて大変」が最も多い。
- スマート農業の導入支援や作業の効率化、就農後の労働環境改善が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
収入が不安定	26	32%
農作業がきつくて大変	36	44%
資金がない	5	6%
休みがない	3	4%
その他	11	14%
	81	100%

その他の内容

- 高齢のため
- 現在の仕事が忙しいため
- 他にやりたい仕事がある
- やったことがないので..



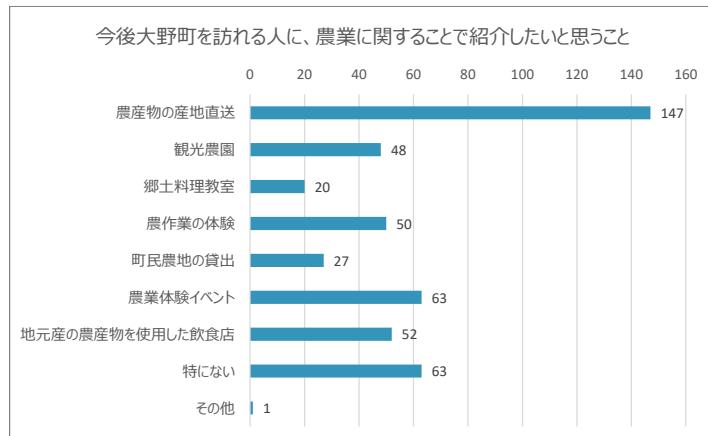
設問20. 今後大野町を訪れる人に農業に関することで紹介したいこと【複数回答】

- 農業に関することで紹介したいことは「農産物の産地直送」が最も多い。
- 設問9であった、町内産農産物のイメージの「新鮮である」に関連していると考えられる。

項目	票数	割合
農産物の産地直送	147	53%
観光農園	48	17%
郷土料理教室	20	7%
農作業の体験	50	18%
町民農地の貸出	27	10%
農業体験イベント	63	23%
地元産の農産物を使用した飲食店	52	19%
特ない	63	23%
その他	1	0%
	471	

その他の内容

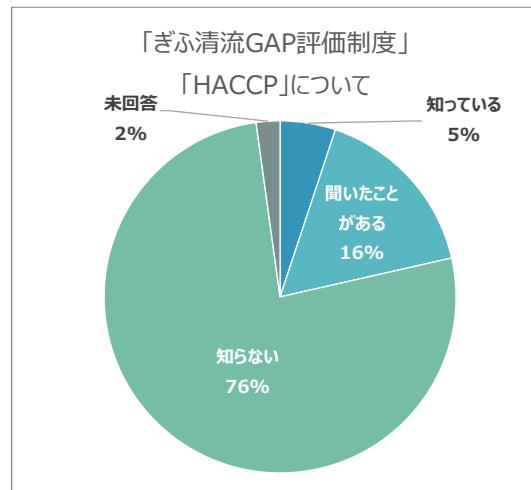
- ・安く柿を購入できる店の出店



設問21. 「ぎふ清流GAP評価制度」や「HACCP」についての取組を知っているか

- 「ぎふ清流GAP評価制度」「HACCP」の取組は「知らない」が最も多い。
- 制度の周知・理解促進が課題であると考えられる。

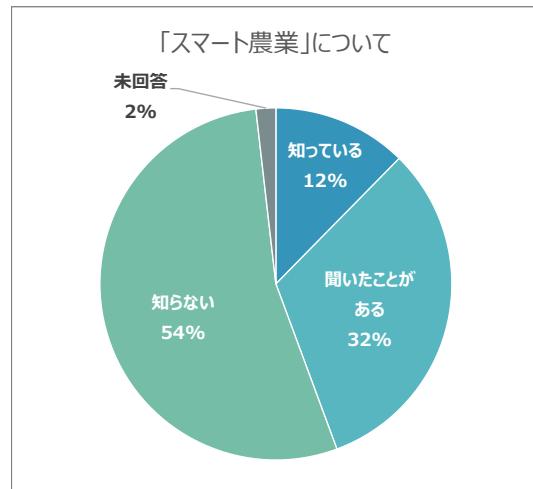
項目	票数	割合
知っている	14	5%
聞いたことがある	45	16%
知らない	210	76%
未回答	6	2%
	275	100%



設問22. 「スマート農業」について知っているか

- ・「スマート農業」の取組は「知らない」が最も多い。
- ・「スマート農業」の周知・理解促進が課題であると考えられる。

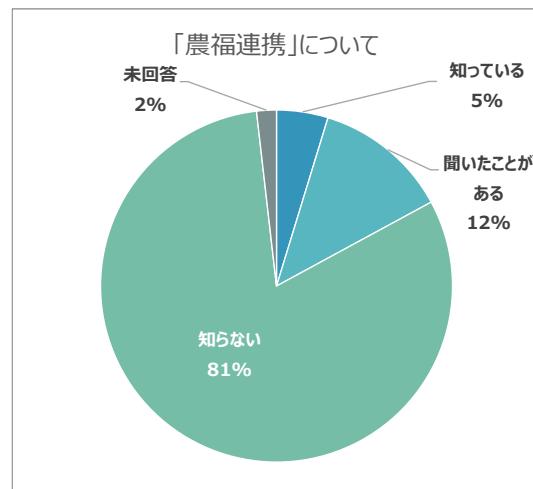
項目	票数	割合
知っている	34	12%
聞いたことがある	88	32%
知らない	148	54%
未回答	5	2%
	275	100%



設問23. 「農福連携」について知っているか

- ・「農福連携」の取組は「知らない」が最も多い。
- ・「ぎふ清流 GAP 評価制度」「HACCP」「スマート農業」「有機農業」と比較すると、一番知られていない取組であり、「農福連携」の周知・理解促進が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
知っている	13	5%
聞いたことがある	34	12%
知らない	223	81%
未回答	5	2%
	275	100%



設問24. 「有機農業」について知っているか

- ・「有機農業」の取組は「聞いたことがある」が最も多い。
- ・「ぎふ清流 GAP 評価制度」「HACCP」「スマート農業」「農福連携」と比較すると、一番知られている取組であり、「有機農業」の更なる周知・理解促進が課題であると考えられる。

項目	票数	割合
知っている	93	34%
聞いたことがある	132	48%
知らない	45	16%
未回答	5	2%
	275	100%

